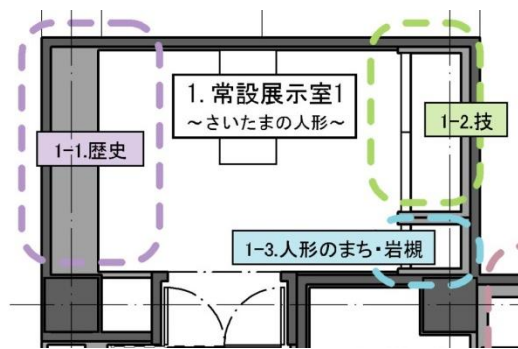


1. 資料調査について

(1) 人形産業についての調査

「(仮称) 岩槻人形博物館」の展示プランでは、展示室1「さいたまの人形」という常設展示室を設置する計画である。この展示室の展示構成の検討と展示資料の収集のため、岩槻をはじめとした人形産業の調査を行っている。



展示室1「さいたまの人形」(平面図)

○資料収集

- ・職人、元職人宅に残る人形製作道具の所在調査と寄贈、寄託、購入による収集
- ・古写真、広告などの所在調査と収集

○ヒアリング調査

- ・人形の製作技術と流通、暮らしについて
- ・小道具、スガ糸、桐箱、胡粉など関連産業

○文献資料調査

- ・国会図書館等の機関で新聞記事、業界誌などから、埼玉県内の産地にかかわる記事を探して複写。



1. ケフキダイ
2. キリダシ
3. マキワラと人形のかしら、手足
4. クシ、ブラシ
5. メンソウフデ、クチジフデ、ケガキフデ

(2) 今年度の調査予定

- ・人形産業についての調査（昨年度からの継続）
- ・外部機関での文献複写、目録化（昨年度からの継続）
- ・染織の有識者による鑑定

⇒西澤笛畝、浅原革世コレクション等、本市のメインコレクションとなっている収集家が集めた人形は伝来背景不明のものが多く、モノから得られる情報が大きな手掛かりになる。今年度は人形の衣装について専門家の知見をうかがい、産地や時代判定の手がかりとする予定。



御所人形 裸童
鳥居に杉並木が刺繍された胴掛が印象的

2. 収藏品管理システムの構築について

平成26年度にAccessで作成した「(仮称) 岩槻人形博物館データベース (収藏品管理システム)」に資料情報、管理情報、受入情報、画像を入力し、集約する作業をしている。今年度は以下のことを視野に入れ、構築作業を進めている。



- ・ネットワークに繋がった収藏品管理システム製品（早稲田開発システム会社など）の導入を視野に入れ、移行の手段を検討しながら進める。
- ・ホームページ、SNS、展示室でのタブレット端末利用などとの連動を検討しながら進める。

3. 修復について

平成28年度の人形修復は、元禄踊り等22点。平成21年度より継続的におこなっている人形修復事業の成果としては、204件（315点）の修復が終了した。また紙資料については、昨年度に引き続き、西澤笛畝の絵画作品「昆虫蛇写生」（大正時代の昆虫図鑑下絵）の修復を実施した。

- ・人形等資料 12件（22点）
- ・紙資料 1件（34枚）

4. プレイベント

◆ 平成28年度

講演会「さいたま市のコレクションと日本人形之美」

- ① 日時：平成29年3月6日（月）14：00～15：30
- ② 会場：さいたま市プラザノース 多目的ルーム
- ③ 講師：是澤 博昭氏（大妻女子大学准教授）
- ④ 入場料：無料
- ⑤ 定員：150名

*会場では、新収藏品の一部を公開した。



◆ 平成29年度(予定)

展覧会「さいたまの人形作り」

- ① 会期：平成30年1月10日（水）～1月19日（金） 会期10日間
- ② 会場：さいたま市プラザノースギャラリー7
- ③ 内容：岩槻を中心とした人形作りの歴史と技、産地の特徴を紹介する展示。

「1. 資料調査について」で記した、展示室1の常設展示構成を検討する機会とする。

